

新演出
Newly Directed Version

AKNプロジェクト AKN PROJECT

Human Pavilion – A Comedy

喜劇 人類大館

きげき
じんるいかん

「彼らも私たちと同じ人間なのに……」
沖縄・日本・アメリカを巡って今も続く歴史に、
記念碑的傑作の新演出が「ドンデン返し」を試みる。

2025
11/22 Sat 18:30
11/23 Sun 13:00 | 18:30
11/24 Mon, holiday 14:00

愛知県芸術劇場 小ホール
Aichi Prefectural Art Theater, Mini Theater

イラスト：大白小蟹 タイトルロゴ：アイデアにんべん

国際芸術祭あいち2025
灰と薔薇のあいまに
Aichi Triennale 2025:
A Time Between Ashes and Roses

AKNプロジェクト AKN PROJECT

喜劇『人類館』

Human Pavilion - A Comedy

新演出 Newly Directed Version

演劇 Theater

2025

11/22 Sat 18:30 ★♡

11/23 Sun 13:00 ♡♡ | 18:30 ★♡

11/24 Mon, holiday 14:00 ♡

※ 受付開始：開演45分前/開場：開演30分前

※ 全公演、日本語バリアフリー字幕をご自身のデバイス(スマートフォン、タブレット、スマートグラス等)でご覧いただけるシステムが利用可能です。(要事前申込)

★ ミート・ザ・アーティスト (演劇界アーティスト等とのトークや対談) ※トーク中はUQトークの文字変換機能があります。

★ リラクタス・パフォーマンス公演 (途中退席や声出しOKなど、観客マナーをゆるくした上演)

○ 託児サービスあり(有料/要事前申込)

上演時間：110min (予定)

言語：沖縄口、沖縄大和口 (演劇中継、日本語バリアフリー字幕あり)

未就学児入場不可

English available online



演劇Webページ



愛知県芸術劇場 小ホール

Aichi Prefectural Art Theater, Mini Theater

名古屋市東区東桜1-13-2

地下鉄東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩3分

チケット

一般発売	U25前売	当日券	ペアチケット (前売のみ)	座席
¥3,500	¥2,000	前売 ¥500	¥6,500	自由席

お得なセット券もあります。詳しくはこちら



取り扱い窓口

▶ アイ・チケット i-ticket

<https://clanago.com/i-ticket>

TEL: 0570-00-5310

※ 車いす席をご予約の方は
上記までお電話ください

▶ Artsticker

<https://artsticker.app/events/76035>

▶ 愛知芸術文化センタープレイガイド

TEL: 052-972-0430

平日 10:00-19:00 土・日・祝 10:00-18:00

月曜定休 (月が祝日の場合は翌日)

▶ チケットぴあ PIA

<http://t.pia.jp>

チケットに関する問合せ

クラシック名古屋 TEL: 052-678-5310 (10:00-16:00 土日祝休み)

国際芸術祭「あいち 2025」

テーマ：灰と薔薇のあいまに A Time Between Ashes and Roses

芸術監督：フール・アル・カシミ

【シヤルジャ芸術財団理事兼ディレクター/国際ビエンナーレ協会(IRA)会長】

会期：2025年9月13日(土)～11月30日(日) [79日間]

会場：愛知芸術文化センター、愛知県美術館、瀬戸市のまちなか

主催：国際芸術祭「あいち」組織委員会

共催：愛知県芸術劇場 (公財) 愛知芸術文化振興事業団

協成：令和7年度文化庁文化芸術振興拠点形成事業、(一財) 地域創造
公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アワード



国際芸術祭「あいち」組織委員会

〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内

X AichiFriends_ @ aichi_friends Aichi2025 aichi_friends



公式Webサイト
<https://aichi2025.aichi.jp/>

今も沖縄に多大な影響を残している劇作家・知念正真の代表作『人類館』(初演1976年/岸田戯曲賞受賞)は、1903年の『人類館事件』を起点に、皇民化教育、沖縄戦、米軍統治とベトナム戦争、1972年の本土「復帰」を織り込み、沖縄を巡る歴史を白昼夢のような手法で示した記念碑的傑作である。本作では、娘の知念あかねが2020年に立ち上げたAKNプロジェクトにより、3度目のリ・クリエーションに挑戦。共同演出には沖縄から新進気鋭の新垣七奈、舞台美術に佐々木文美、ドラマトゥルクに林立騎を迎え、戯曲を「喜劇」として捉え直すことで、強さと弱さ、無関心と苦しみ、ゲートの内と外、国家の中心と周縁といった現在に至るまで続く関係の反転を試みる。



Photo: 仲根良太

出演：

井上あすか

(いのうえ・あすか/写真中央)

神田宵

(かみだ・せい/写真右)

仲根雄作

(なかね・ゆうさく/写真左)

知念正真 (ちねん・せいしん) | 作

劇作家。沖縄市生まれ。コザ高校卒業後、東京の二松学舎大学に入学するも中退。その後、劇団青年芸術劇場に研究生として入団、1963年に退団し、帰郷。演劇集団「創造」に加わり、俳優・演出家として活躍。72年には劇作家としても活動を開始。76年に『人類館』を発表し、「創造」で上演。1903年の大阪・第5回勧業博覧会会場で「人間の展示」を行った「学術人型」に発する『人類館事件』を出発点に、沖縄口と沖縄大和口を織り交ぜ、場面展開にも流動性を持たせた本作は、78年に沖縄の作家として初の岸田戯曲賞を受賞。その後も沖縄の地から人間が抱える様々なテーマとメッセージを込めた作品を残した。

知念あかね (ちねん・あかね) | 演出

演奏家、音楽講師。幼少期より音楽を学び、演奏活動と指導等、長年クラシック音楽の普及に携わる。2013年に亡くなった父・知念正真の作品の継承のために20年に「AKNプロジェクト」を発足。知念正真の作品を中心に、戯曲、音楽、文学等の芸術活動を通して「沖縄の若年層が楽しめる舞台作り」をテーマに活動。21年にコロナ禍で『喜劇・人類館』の配信上演をプロデュースし、22年には那覇文化芸術劇場なはーとにて沖縄「復帰」50年特別企画として上演した。

新垣七奈 (あらかき・なな) | 演出

演劇ユニット多々良主宰。高校から演劇を始め、2016年にユニットを結成。これまでのユニット公演ではすべての作品の演出を行う。演劇人コンクール2024にて奨励賞受賞。俳優として外部作品に多数出演。近年の主な出演作には、20年コロナ禍でオンラインの開催が話題となった九州・沖縄版「末国の劇場」オンラインや、21年神皇健太が演出した『琉球怪談』。23年なはーとプロデュースによる出会いシリーズ1「声」に出演している。

林立騎 (はやし・たつき) | ドラマトゥルク

翻訳者、演劇研究者。現在、那覇文化芸術劇場なはーと企画制作グループ統括。訳書に『イエリネク「光のない」』。レマン『ポストドラマ演劇はいかに危険か?』(ともに白水社)。イエリネク作品の翻訳で小田島雄志翻訳賞を受賞(2012年)。2005年より高山樗牛の演劇ユニットPartBに、2014年より松島千秋のNPO法人芸術公社に参加。東京藝術大学特任講師(2014-17年)、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサー(2017-18年)、ドイツの公立劇場ドラマトゥルク(2019-21年)を経て、22年より現職。

佐々木文美 (ささき・あやみ) | 舞台美術

セノグラフィアー、快活(Faifa)メンバー。多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒。演劇、ダンス、音楽、展示などに舞台美術、セノグラフィアーとして参加したり、レクチャー・パフォーマンスもする。近年の舞台美術としての参加作品に、Dr. Holiday Laboratory「想像の機軸」、愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama「パフォーマンスセレクション2024「間の時間」」岡田利規×園井はな「ジゼルのあるじ」、北九州芸術劇場「キタダキローカルアーティスト留置プログラム「シワノヴァ」など(いずれも2024年)がある。

藤谷香子 (ふじたに・きょうこ) | 衣裳

衣裳家。快活(Faifa)メンバー。きょうかくうしおにも所属。多摩美術大学在学中より衣裳家として活動を始め、国内外の演劇、ダンス、オペラ、コンサート、現代美術の作品や芸術祭でのパフォーマンス作品に参加し、多岐にわたる分野で活動を行う。その他の活動として、宣伝衣裳、美術費でのワークショップ、講師として授業なども行う。近年では岡田利規の演劇作品、金氏徹平の現代美術作品、角梨夏夏、中村俊樹など音楽家へのスタイリング、近藤良平(コンドルズ)×永積崇(ハナダク)「Great Journey」シリーズに参加。

共同製作：那覇文化芸術劇場なはーと、国際芸術祭「あいち」組織委員会

企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと、AKNプロジェクト、国際芸術祭「あいち」組織委員会